



ビオトープ・ニュース029

発行日 2011/05/01

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部
 事務局：徳島市山城町東傍5-281 新弘測量設計㈱内
 事務局長：東條芳頭 TEL：088-622-5688

■ビオトープ・サロン 生物多様性保全や自然再生のための知識と技術を習得するために

平成23年度ビオトープ管理士資格試験の受付が始まりました。四国ブロックの試験会場は徳島大学（2級に限る）です。受験に先駆けて、全国3箇所で開催されるビオトープ管理士セミナーも開催されます。

昨年はCOP10名古屋の開催によって、生物多様性をキーワードにした様々なイベントが展開されました。生物多様性保全は、地域の野生生物が生息・生育する土地を保全することに他ありません。つまり、生物多様性保全は、持続可能な社会に向けて、まず、今残っているビオトープを守り、失われたビオトープを取り戻し、これらと私たちの暮らしが共存していく仕組みが必要です。そして、適切な判断に基づく賢明な選択と行動が求められます。

ドイツで始まったビオトープ・ネットワーク（米国に渡りエコロジカル・ネットワークとして世界に拡大）の考え方は、生態的な秩序に沿った土地利用を目指すことであり、安全で美しい国土づくりにつながることであります。

私たちの生存基盤である生物多様性、その基盤であるビオトープを理解するための第一歩として、皆さんもぜひ、ビオトープ管理士資格試験に挑戦してみてください。また、今年も、隔年で開催される「全国学校・園庭ビオトープコンクール2011」も開催されます。自薦、他薦、ともに募集中です。 編集担当

【国土保全と人材育成の取り組みのご案内】

財団法人日本生態系協会の案内チラシを一部切り取り転載しました。詳しくは「財団法人 日本生態系協会」のホームページをご覧ください。 <http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>

ビオトープ管理士 資格試験

平成23年度 筆記試験 **9.25(日)**
 受験のお申し込みは 6.1(水) より受付開始

札幌 盛岡 仙台
 東京 新潟 金沢
 長野 松本 静岡
 名古屋 大阪 広島
 徳島 福岡 鹿児島
 キャンパス受験

ビオトープ 管理士セミナー

平成23年度

早期割引!!
 お早めのお申し込みがお得です!

建築系 CPD 協議会 認定プログラム 10.0ポイント!!

東京会場 (定員: 200名)	6/ 4 (土)・5 (日)	飯田橋レインボービル
大阪会場 (定員: 100名)	6/18 (土)・19 (日)	新梅田研修センター
名古屋会場 (定員: 100名)	7/ 2 (土)・3 (日)	栄ガスビル

URL <http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>
 tel. 03-5954-7106 fax. 03-5951-0246

地球のいのち、つないでいこう
 生物多様性

全国 学校・園庭ビオトープ コンクール 2011

応募締め切り **6月30日!**

主催 財団法人 日本生態系協会

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集担当)

【ビオトープ論：正答・解説は次号で紹介】

問029：指標種に関する次の説明のうち、キーストーン種の説明はどれですか。

1. 同様の生息場所や環境条件要求性を持つ種群の代表種
2. 生物群集における生物間相互作用と多様性の要をなす種
3. 希少種や絶滅のおそれの高い種
4. 美しさや魅力によって特定の生息場所の保護をアピールすることに役立つ種

■前号028の正答「3」

「食物連鎖」「生態(系)ピラミッド」「食う・食われる」の関係についての知識を問う問題です。生態ピラミッドというのは、食物連鎖や栄養段階において、各段階の生物量にかかわる言葉です。一般に、段階が高いほどその量が少ないので、これを積み上げ式に表示すれば、ピラミッドのように見えることからその名があります。このことを最初に指摘したのは、チャールズ・エルトンであったため、別名をエルトンのピラミッドともいいます。

ちなみに栄養段階とは、食物連鎖でつながっている生態系の動植物を、生産と消費の別に区分したもので、第一栄養段階を生産者、第二栄養段階を一次消費者、第三栄養段階を二次消費者と分けられた生物学の用語です。

豊かな生態系は広い底辺に支えられているということで、その基盤であるビオトープが大切ということです。

※最近の受験者は、環境NPO構成員、国・地方公務員、外郭団体や地方自治体職員、企業退職者が増加傾向です。

■ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記！ ～ブログ-ビオトープ気延の里～

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

【～新しい拠点～ 2月27日】



2月27日 晴れ 今日とは思えない暖かさ。新たに、バツハの広場のすぐ北側の休耕田を借り受けました。例のよってゴミの山。今日はその整備です。草刈機でバツバツ、とはいきませんが、悪戦苦闘の末ご覧のとおり。いやー、達成感の塊ですね。で、作業の途中で子供の頃よく見たこんな‘楽’が。何の楽なんでしょうかね。

■ビオトープ・ナビ Q&Aコーナー

【何の楽なんでしょうかね?…石井町のわんぱくおじさん】

編集局から一言

写真の楽はカヤネズミかオオヨシキリのどちらかと思われます。よく間違われますが、判別のポイントは巣材と形状です。カヤネズミはススキやマコモ・ヨシなどの葉を直接丸めてボール型(壺型：口が小さい)、オオヨシキリはヨシの茎に、イネ科植物の葉や細い莖で編みつけた椀型(口が大きい)です。ちなみにヨシキリは、ヨシ群生地を繁殖地とし、そこに営巣する環境選好性が極めて強い種、即ち「ヨシに限る→ヨシキリ」というのが名前の由来のようです。(「切り」ではなく「限る=きり」)

カヤネズミやヨシキリに限らず最近、身近な生きものが子育てをする空間(草原)が激減しています。また、スズメは農家の軒先が、ヒバリは草地の代償だった麦畑や桑畑が、ツバメは招き入れてくれる農家が…。

ビオトープ気延の里周辺は、カルガモをはじめ、多くの水鳥や水辺の動植物が生息・生育している地域です。この地域がかつて湿原であった名残でもある葦原は、彼らにとっては貴重なビオトープです。適正な管理をしつつ見守れば、やがて、水辺に移動するカルガモ親子の行進が見られるかも!?(写真左：カヤネズミの巣/写真右：オオヨシキリの巣)



■みんなの“たからもの”

【庭の手水鉢に小さな訪問者】

寄稿：KKさん



冬の終わりが近づく頃、庭にメジロがよく訪れます。(他にもいろいろと)

我が家は山とはほど遠いのですが、時には群れてやってきます、数本のザンカやツバキの恵みをいただきに。

この日は、番(つがい)でしょうか?二羽が仲良く水浴びです。何とも愛らしい姿にしばらく見入ってしまいました。間もなく巣作りを始めるのかな?

ガラス越しの写真でしらけていますが、寄稿してみました。3月13日

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください! 編集局

[E-mail : kanv@nifty.com URL : http://biotopetokushima.yu-yake.com]